

第8回

研究発表会 in 福島

於：けんしん郡山文化センター

2019年7月10日(水) 研究発表会、企業展示、懇親会

2019年7月11日(木) 研究発表会、企業展示、国際シンポジウム

2019年7月12日(金) エクスカーション(現場視察研修)



▲けんしん郡山文化センター(公式ホームページより)

1. はじめに

開催日程とプログラム概要は下表の通りですが、口頭発表45件、ポスター発表51件および3つの企画セッションとなったことから、時間的にタイトでしたが充実した研究発表会となりました。国際シンポジウムについては7月11日(木)の最終日午後の最終プログラムとして実施しましたが、130名余りの参加がありました。

開催期間中の参加人数は、7月11日に、たまたま大ホールで並行して開催された歌謡ショーの観客が待ち時間に展示室の見学に来たこともあり、約450名となりました。また、研究発表会翌日の12日(金)に現場見学・研修として東電福島第一原発や中間貯蔵現場等のエクスカーション2コースを実施しました。レポートもp.189より掲載しましたのでご覧ください。

プログラム概要

— 除染・減容化・中間貯蔵など福島環境再生・復興に向けて —

日付	2階 中ホール		5階 集会室		1階 展示室	入場無料・市民等開放
	時間帯	内容	時間帯	内容	時間帯	内容
7月10日(水)	9:20 ~ 9:30	開会セレモニー				
	9:35 ~ 11:11	セッション1 減容化(1)	9:40 ~ 11:04	セッション2 計測・解析技術(1)	10:00 ~ 11:10	企業展示・企画展示(期間中常設)
	11:11 ~ 13:00	休憩	11:04 ~ 13:00	休憩	11:15 ~ 12:15	ポスターセッション(偶数)
	13:00 ~ 15:00	企画セッション 「リスクをめぐる対話ーリスクコミュニケーションのあり方」	13:00 ~ 14:00	セッション3 計測・解析技術(2)	12:15 ~ 17:00	企業展示・企画展示(期間中常設)
			14:00 ~ 14:10	休憩・時間調整		
			14:10 ~ 14:58	セッション4 除染技術、再生利用		
	15:00 ~ 15:10	休憩・時間調整	14:58 ~ 15:10	休憩・時間調整		
	15:10 ~ 17:10	企画セッション 「県外最終処分に向けたシナリオとその多面的評価」	15:10 ~ 16:10	セッション5 貯蔵管理、復旧		
			16:10 ~ 16:20	休憩・時間調整		
7月11日(木)			16:20 ~ 17:08	セッション6 リスク対策		
	17:20 ~ 18:10	開催セレモニー 来賓祝辞 環境放射能除染学会表彰式				
	10:00 ~ 12:00	企画セッション 「福島第一原子力発電所事故による海、川への影響」 入場無料・市民等開放	9:30 ~ 10:42	セッション7 減容化(2)	9:30 ~ 13:00	企業展示・企画展示(期間中常設)
			10:42 ~ 10:52	休憩・時間調整		
			10:52 ~ 12:04	セッション8 減容化(3)		
7月11日(木)	12:00 ~ 14:00	休憩			13:00 ~ 14:00	ポスターセッション(奇数)
	14:00 ~ 17:00	国際シンポジウム 「環境回復活動と住民の理解・信頼向上」 入場無料・市民等開放			14:00 ~ 16:00	企業展示・企画展示(期間中常設)

2. 開会式および開催にあたっての来賓挨拶

例年、開催の初日の朝一番に開催挨拶および来賓からのご挨拶をいただいておりますが、朝一は聴講者の数も少ないことから、のちの時間帯に行いました。開催セレモニーは恒例として、森田昌敏理事長と米田稔実行委員長(会長)より開催の挨拶を、中ホールの研究発表前の朝一で行いました。また、ご来賓からの祝辞等のセレモニーは開催日の終盤で学会賞表彰式に先立って実施しました。

ご多忙な中、登壇いただいた皆様を右表にご紹介しますが、ご来賓の皆様には大変感謝いたします。特に、

品川萬里郡山市長には、第3回の研究発表会開催の折にも暖かいお言葉をいただき厚く御礼申し上げます。

開催にあたってご挨拶をいただいた皆様

役職・所属等	氏 名
環境省大臣官房審議官	松澤 裕 様 ^{ゆたか}
福島県生活環境部環境保全総室 環境回復推進監兼次長	橋本 武士 様
郡山市長	品川 萬里 様 ^{まさと}



開催の挨拶をする森田理事長



開催の挨拶をする米田実行委員長



品川郡山市長の来賓挨拶

開会セレモニー



松澤環境省大臣官房審議官



福島県生活環境部 環境保全
総室の橋本氏

3. 学会表彰式

第1日目の最終発表セッション後の来賓挨拶に引き続き、学会表彰式を開催しました。厳粛なセレモニーであり、舞台上でリハーサルを行い実施しました。受賞者全員に表彰状と記念のクリスタル盾が授与されました。

受賞された皆様は誇らしげであり、これからも頑張ってくださいそうで、学会賞を設けた意義を感じました。なお、奨励賞の島田氏は海外出張のため表彰式には残念ながら欠席されました。

なお、受賞者の詳細および「受賞のことば」を『学会からのお知らせ』(P202～)に掲載しましたので、ぜひご覧ください。



学会賞の授与

表彰に値する賞の種類と授与の位置づけ

賞の種類	授与の位置づけ（意味）
学会賞	本学会の発展に貢献もしくは環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において特に優れた功績を認められた個人、法人、または団体・グループに贈呈する
学術賞	環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する学術研究において、顕著な貢献があると認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈する
技術賞	環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する対策技術等に関して顕著な貢献があると認められる個人、法人、または団体・グループに贈呈する
奨励賞	環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する一連の論文、著作等、学術研究成果が特に優れた若手研究者に贈呈する。授賞対象者は概ね45歳以下の者とする
功労賞	環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生に関する分野において科学・技術の進歩発展および環境の改善ならびに本学会の発展に、著しく貢献した個人、法人、または団体・グループに贈呈する
優秀研究発表賞	研究発表会において特に優れた研究発表を行った学生および若手研究者に贈呈する
特別賞	上記の各賞の他、必要に応じて特別な表彰を行うことができる



受賞の皆さんと米田会長



記念のクリスタル盾



表彰式の様子

学会表彰式

4. 口頭発表と優秀口頭発表賞

(1) 口頭発表会場

口頭発表は2階の中ホールと5階の集会室で開催しました。5階は研究発表専用としましたが、中ホールでは、研究発表のほか、3つの企画セッションを実施しました。

各研究発表および企画セッション共に会場からの質問も多く、特に企画セッションは一連の基調講演の下に総合討論を設けていることから、会場とのやり取りも活発でした。

第II企画セッションでは除染土壌の再利用と県外処分

について幾つかの考え方の例示が示されましたが、今後、研究調査を継続し関係者に提言できることを目指すということことで締めくくられました。第III企画セッションでは「東電福一構内に貯留しているトリチウム汚染水の処分はどうなるのでしょうか」となどという質問がありました。考え方として①海洋に放流、②蒸発散させる案、③貯留を継続するという3案が挙げられているが、方策は未定という説明がありました。また、「トリチウムを除去する技術があると聞いたことがあるが本当か」となどという質問もありました。発

表者側からの、そのような技術があり調査したことがあるが、とても現実的な技術ではないという説明などが印象に残りました。なお、口頭発表各セッションの座長報告をP158より掲載しています。

(2) 優秀口頭発表賞の紹介

第7回研究発表会から実施している優秀口頭発表賞制

度は、各セッションの座長が発表内容および発表方法について評価し、各セッションから1件を推薦し、その後、会長、理事長、実行委員長、副理事長の協議により5件程度の優秀口頭発表賞を選定します。また、その中から1件を最優秀口頭発表賞に決定します。

今年の受賞については『学会からのお知らせ』に詳細いたしました(p.211～)ので、ぜひご覧ください。

▼中ホールの発表風景



質疑応答 (中ホール) ▶

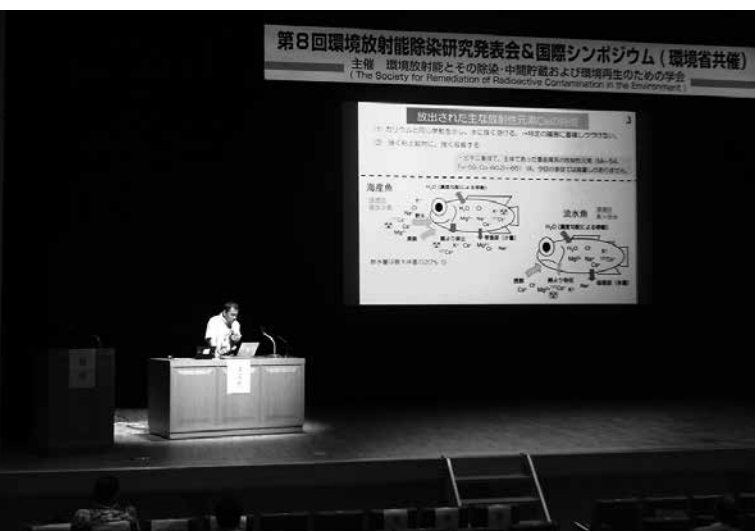
口頭発表の様子



▲5階集会室での口頭発表



▲森田理事長も質問 (5階集会室)



◀企画セッション III 海産物の放射能汚染について講演する森田氏

企画セッション



▲企画セッション III
原発事故由来の北太平洋のセシウム状況を整理した青山氏の講演



▲企画セッション I
リスクコミュニケーションについての小杉氏の講演



◀企画セッション III 放射性廃棄物の県外処分についての総合討論

企画セッションの紹介

【企画セッションⅠ】環境放射能除染学会 - 日本リスク研究学会共催

「リスクをめぐる対話ーリスクコミュニケーションのあり方」

座長：米田 稔（京都大学）

7/10 13:00 ～ 15:00

1	東日本大震災におけるリスクコミュニケーション	竹田宜人（製品評価技術基盤機構（NITE））
2	リスク認知とバイアス	小杉素子（静岡大学）
3	場の作り方、個人属性、メディア	広田すみれ（東京都市大学）
4	総合討論	

パネリスト：座長および基調講演者

【企画セッションⅡ】環境放射能除染学会「県外最終処分技術開発戦略あり方研究会」

成果報告

座長：大迫政浩（国立環境研究所）

「県外最終処分に向けたシナリオとその多面的評価」

7/10 15:10 ～ 17:10

1	県外最終処分に向けたシナリオ	山田一夫（国立環境研究所）
2	県外最終処分に向けたシナリオに対する多面的評価の考え方	保高徹生（産業技術総合研究所）
3	総合討論	司会：大迫政浩（国立環境研究所）

パネリスト：大迫政浩（国立環境研究所）、有馬謙一（国立環境研究所）、遠藤和人（国立環境研究所）、大越 実（日本アイソトープ協会）、杉山大輔（電力中央研究所）、宮本泰明（電力中央研究所）、保高徹生（産業技術総合研究所）、山田一夫（国立環境研究所）

【企画セッションⅢ】「福島第一原子力発電所事故による海、川への影響」

座長：河津賢澄（福島大学）

7/11 15:10 ～ 17:10

1	福島第一原発事故により放出された長寿命放射性核種の環境中のマスバランスー事故後 8 年間で分かっていることー	青山道夫（筑波大学）
2	海産物の放射能汚染と漁業復興の現状と課題	森田貴己（中央水産研究所）
3	淡水魚の放射能汚染と漁業復興の現状と課題	和田敏裕（福島大学）
4	総合討論	

パネリスト：座長および基調講演者



総合討論の様子

5. ポスター発表会場

ポスター発表は 51 件でしたが、本年の特徴としては高校生からの研究発表があったことが挙げられます。しかも、高校生の発表が最優秀ポスター賞に選ばれました。高

校生に最優秀を取られるのは残念だという意見や、真摯な内容で評価できるという意見がありました。

『学会からのお知らせ』に詳細を掲載しました (p.211) のでご覧ください。



▲ポスター発表会場風景



6. 企業展示および企画展示

(1) 企業展示

企業展示は下表の通りです。展示の各企業の皆様の出展協力には大変感謝いたします。各々が有用な技術等であり、今後の展開を期待いたします。

企業展示の紹介

企業等名称	展示内容
株式会社荏原製作所 / 日本化学工業株式会社	除染用の Cs/Sr 同時吸着剤等の紹介
環境・遮水管理リモートセンシング研究会	最終処分・中間貯蔵施設における遮水シート接合検査のためのリモートセンシング技術の紹介
株式会社クボタ / クボタ環境サービス株式会社	放射性廃棄物対応の回転式表面溶融炉の設備および実証概要の紹介
株式会社 JEMS	環境・公共インフラ事業の ICT 支援のシステム技術として輸送管理システムなど紹介
太平洋セメント株式会社 / 日立造船株式会社	熱処理ばいじん等からの Cs 分離除去と廃棄体技術の紹介
千葉大学理学研究院粒子線物理研究室 / JFE エンジニアリング株式会社	素粒子識別の技術を応用して、 ⁹⁰ Sr を即時測定する測定器の開発技術の紹介
東京電力ホールディング株式会社 福島復興本社	環境中の放射能に関する測定・評価の技術開発と環境回復への取組の紹介
株式会社東邦電探	水中放射能度の小型で高感度の自動観測装置の技術紹介
株式会社トータル環境	大スパンの全天候型仮設テント技術の紹介
日本遮水工協会	中間貯蔵施設などを対象とする最新の遮水工技術の紹介
株式会社パーキンエルマー・ジャパン	各種の放射性測定装置の紹介
株式会社フジタ	焼却施設発生した焼却灰をオンサイトでの脱塩処理を行う技術の紹介
富士電機株式会社	放射性廃棄物の分野で工業利用されているジオポリマー固化材の紹介
フリッチュ・ジャパン株式会社	分析の前処理や廃棄物再利用の研究に伴う試料粉碎試験機器などの紹介
ベルトール・ジャパン株式会社	環境中や食品等への対応の各種の放射性測定装置の紹介
株式会社堀場製作所	連続測定や放射線マッピングに有用な環境放射線モニタの紹介
株式会社流機エンジニアリング	放射線物質が含まれた粉塵を収集する放射性物質対策用集塵機の紹介



▲企業展示風景▲

(2) 企画展示

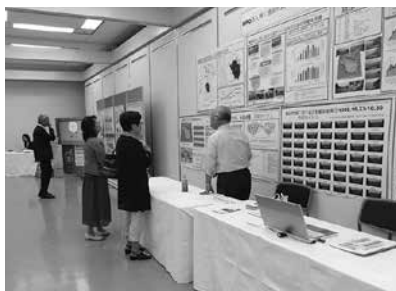
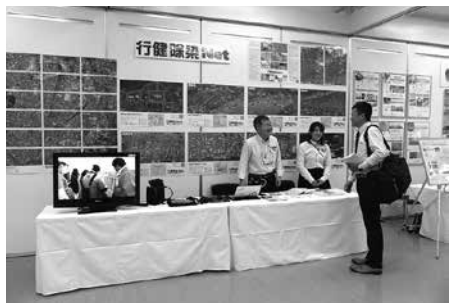
企画展示は、主に福島県内で除染や環境再生および復興にかかわるNPOおよび関連団体等に活動紹介をいただく場として参加を募集しました。今回は下表に示す通り、

16団体に出版協力をいただき賑やかな展示室となりました。企業だけでなく、福島県の環境再生や復興に努力している各団体の参加により、官公庁や県民が頑張っている様子がよくわかりました。

企画展示団体の紹介

団体名等	出展内容
福島県環境創造センター	本センターの事業である、モニタリング、調査研究、情報収集発信、教育研修交流など紹介
中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO)	国の全額出資の特殊会社であり、法に基づく環境省からの委託により、中間貯蔵事業を実施しており、そこでの役割等の展示紹介
国立研究開発法人 国立環境研究所	2016年 4月に福島支部を県の環境創造センターに設置、放射能汚染廃棄物の適正管理や今後の課題である減容化や県外処分に向けた技術開発等様々な取り組み等について展示紹介
環境再生プラザ (環境省)	環境再生に関する情報拠点として、環境回復に向けた除染の成果、中間貯蔵施設の概要や進捗状況、輸送等についてパネル展示紹介
国立大学法人 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター	この震災災害と放射能汚染により避難を余儀なくされた福島被災者と避難地域の復旧・復興に向けた支援を行っているが、本センターの活動内容およびその成果を中心に展示紹介
郡山市	郡山市における除染の実施状況や放射線量の推移など展示紹介
公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構	災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトとして、廃炉・ロボット・エネルギー・農林水産等の分野におけるプロジェクトの具体化や、産業集積・人材育成等への取組について展示紹介
行健 (こうけん) 除染ネットワーク (小学校 PTA 有志)	「子供を守るため」2011年5月から続けている市民ボランティア組織であり、学校内の清掃や通学路や遊び場の線量測定を実施してきており、これまでの活動の展示紹介
NPO 法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議	猪苗代湖の水質を復活させるべく実施してきた種々な調査など活動展示紹介
株式会社福島環境整備機構	福島県内の自動車整備工場に残置された油水分離槽の放射性汚泥処理の具体的な取組推進活動の展示紹介
公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS-J)	福島県等における日本自然保護協会の展示紹介
おぜしかプロジェクト	尾瀬周辺、会津を中心とした野生生物と人との関り、汚染のためジビエとならない猪や鹿等の駆除動物の皮革の活用活動の展示紹介。皮革の加工は横浜市立日野中央高等特別支援学校と連携して実施している
横浜市立日野中央高等特別支援学校	日野中央高等特別支援学校における革工科の取組紹介として、2015年よりおぜしかプロジェクトと連携して、皮革商品開発している活動等展示紹介
企画セッションⅠ：日本リスク研究学会	リスク学会活動とリスク辞典について展示紹介
企画セッションⅡ：環境放射能除染学会 「県外最終処分技術戦略研究会」	「県外最終処分技術戦略研究会」のこれまでの成果報告として、「県外最終処分に向けたシナリオとその多面的評価」の内容を展示紹介
企画セッションⅢ：福島第一原子力発電所事故による海・川への影響	海産物・淡水魚への影響、海洋・海水への影響等についてポスター展示紹介

▼行健除染ネットワーク



▲輝く猪苗代湖をつくる県民会議

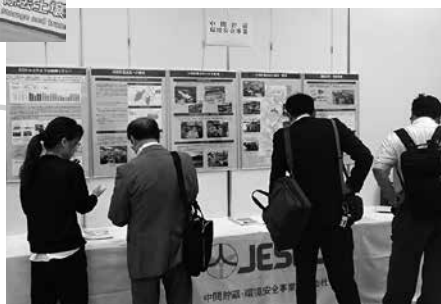
▼福島大学うつくしふくしま未来支援センター



▲郡山市



企画展示会場より



▲JESCO



▲おぜしかプロジェクト

7. 意見交換および懇親会

研究発表終了後の18時半より、約150名の参加をいただきホテルハマツの宴会場にて意見交換および懇親会を開

▼懇親会場で米田会長より御礼の挨拶



催しました。

はじめに米田学会会長（今回の実行委員長）から開催にあたって御礼の挨拶があり、引き続き、来賓として環境省の松沢審議官、品川郡山市長、JESCOの小林社長から研究発表会開催セレモニーとはまた異なる大変ご丁寧な親身にあふれた祝辞をいただきました。

歓談の中ほどには学会賞受賞の皆様からご挨拶をいただきました。受賞者各位とも誇らしげであり、今後の活力となるという感想でした。学会側としても嬉しい限りです。

会の締めは次回の第9回の実行委員長である福島大学の佐藤理夫教授より、ご参集の各位への御礼と、次回のご支援のお願いと、次回の成功を祈念した力強い宣言がありました。

なお、本学会の恒例になっていますが、司会進行の塚田学会副会長の軽妙な司会で大変楽しい懇親会として終了しました。



▲環境省 松澤大臣官房審議官より祝辞



◀ JESCO 小林社長より祝辞



▲歓談風景（峠実行幹事長の誕生日に乾杯）



▲品川郡山市長より祝辞

懇親会会場より



▲リスクコミュニケーションについて熱く語る奨励賞受賞の万福氏



▲竹下東京工業大学教授より学術賞受賞の挨拶



▲技術賞受賞の釜田氏が喜びの挨拶



◀ 次年度第9回発表会の実行委員長、福島大学 佐藤教授より来年に向けた締めめの挨拶



▲功労賞受賞の安原学会誌編集副委員長